

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2533 号

Low apolipoprotein A1 was associated with increased risk of cancer mortality in patients following percutaneous coronary intervention: A 10-year follow-up study

10年のフォローアップ期間を有する経皮的冠動脈インターベンション症例レジストリデータベースを用いた解析により、PCI 症例におけるアポリポ蛋白 A1 低値は、癌死亡リスク上昇と相関することが示された

西山 大樹（にしやま ひろき）

博士（医学）

論文審査結果の要旨

本論文は、経皮的冠動脈形成術(PCI)後の患者を対象に、術前のアポリポ蛋白(ApoA1)値とその後の癌死亡との関連を長期的に評価し検討を行ったはじめての論文で、他に類をみない。高比重リポ蛋白(HDL)、ApoA1の上昇は抗動脈硬化作用として確立し、全死因における心血管関連死を低下させるのは既知の事実であるが、癌に対してどのようにはたらくかについての検討は限られており、十分な結論は得られていない。さらに、代表的な動脈硬化性疾患である冠動脈疾患症例、すなわち冠動脈インターベンション(PCI)施行症例における非心血管死が年々増加しており、特に癌関連死の増加が問題となっている。一般集団ではHDL-CとApoA1値が癌の発生率および癌死亡と逆相関することがこれまでに示されているが、PCI術前のApoA1値がその後の患者に与える影響はこれまで全く検討されていない。本論文ではApoA1低値にフォーカスし、患者を3群(ApoA1 \leq 110、110<ApoA1 \leq 130、ApoA1>130)に分け解析を行い、ApoA1が最も低い群は高い群と比較し全癌死亡、消化器癌死亡、肺癌死亡が有意に高いことが示されている。一方、同様にHDL-Cを3群で比較検討したが癌死亡に有意差は認められなかった。喫煙状況などの癌関連因子で調整した多変量コックス比例ハザード回帰分析では、ApoA1の上昇は全癌死亡および消化器癌死亡のリスクの減少と独立した予後予測因子であることが示されており、本研究ではPCI施行症例において、メカニズムは不明ながらApoA1は癌に対して保護的に働き、術前のApoA1低値は(HDL低値ではなく)将来の癌死亡リスクの予後指標となる可能性を初めて明らかにした臨床的意義のある論文である。

よって、本論文は博士（医学）の学位を授与するに値するものと判定した。